（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	さわやか愛の家のおがた館			
○保護者評価実施期間	2026年　2月　10日	～	2026年　2月　28日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	12	（回答者数）	12
○従業者評価実施期間	2026年　2月　10日	～	2026年　2月　28日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	4	（回答者数）	4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　3月　5日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	イベント時に地域の方や他事業所の方たちと交流を図る機会がある。	イベント時に地域住民や他事業所の職員・子どもと交流する機会を設け、子どもたちの社会性や多様な経験を育むよう意図的に取り組んでいる。 交流を通じて、地域とのつながりやネットワークづくりを重視している。	交流の機会を年間計画に組み込み、定期的かつ継続的に実施できる体制を整える。 交流内容や活動後の振り返りを記録・共有し、子どもや地域にとってより効果的な経験となるよう工夫する。 保護者も参加できるプログラムを検討し、家族との連携や地域理解をさらに深める。
2	子どもと保護者の満足度の高さ	こどもや保護者の声を日常的に丁寧に聴き、支援内容や対応方法に反映している。 個別支援計画に基づき、子ども一人ひとりの特性やニーズに応じた支援を提供している。 保護者への情報提供や相談機会を確保し、安心して利用できる環境づくりを意識している。	満足度調査の結果を定期的に分析し、支援改善や新たな取り組みに反映する。 保護者や子どもへのフィードバックの場を設け、意見交換をより活発に行う。 個別支援の内容や環境の改善点を具体化し、さらなる満足度向上につなげる。
3	個別での相談や支援業務	個別相談や支援の機会を設け、子どもや保護者のニーズに合わせたきめ細やかな対応を行っている。 面談や日常のやり取りを通じて、課題や希望を把握し、支援計画や日々の活動に反映している。 個別対応により、子どもが安心して活動に参加できる環境づくりを意識している。	相談内容や支援の記録を体系化し、全職員で共有することで、支援の質と継続性を高める。 定期的に面談のタイミングや方法を見直し、より参加しやすく効果的な個別支援を実施できる工夫を進める。 保護者や子どもからの意見を反映し、個別支援プログラムの改善や新たな取り組みにつなげる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動支援の内容	活動支援の内容が一部固定化しており、子どもの興味・発達段階に応じた多様な活動が十分に提供できていない場合がある。 職員間で活動プログラムのアイデア共有が不十分なことや、時間・人員の制約により柔軟な活動展開が難しいことがある。	子ども一人ひとりの特性や関心に応じた活動を計画段階で意図的に組み込む工夫を強化する。 職員全員がアイデアを出しやすい環境を整え、定期的なプログラム検討会を開催する。 外部の事業所や地域と連携した交流や体験活動を取り入れ、活動の幅を広げる。
2	チームでの活動の立案と振り返りの不十分さ	活動プログラムの立案や支援後の振り返りが職員間で十分に共有・検討されておらず、支援の質や一貫性にばらつきが生じている。 打合せや振り返りの時間が十分に確保できない場合や、記録・共有方法が統一されていないことが影響している。	支援前後の打合せ・振り返りを定例化し、全職員が参画できる体制を整備する。 振り返り内容や改善点を記録・共有するフォーマットを統一し、次回支援に反映できる仕組みを作る。 定期的に職員間でプログラム検討会や事例検討会を行い、チームでの支援力を向上させる。
3	家族支援の不十分さ	家族支援プログラムや研修の参加機会が限られており、保護者全員に十分な支援や情報提供が行き渡っていない場合がある。 家族のニーズや希望を把握する仕組みが十分でないため、個別支援との連動が不十分になりやすい。	保護者向け研修や情報提供の回数・内容を見直し、より多くの保護者が参加できる体制を整える。 保護者のニーズや意見を定期的に把握するアンケートや面談の機会を設け、支援計画に反映する。 家族同士の交流や支援事例の共有を通じて、家庭での支援力向上を促す工夫を進める。